

島根県水産技術センター 漁況情報 平成 18 年 7 月 14 日発行

トビウオ通信 (H18 第 4 号)

(本誌はホームページでもご覧いただけます。ホームページにはバックナンバーもあります。)
<http://www2.pref.shimane.lg.jp/suigi/> (TEL 0855-22-1720)

《マアジ新規加入量調査結果速報》

島根県水産技術センターでは、日本海区水産研究所、西海区水産研究所および鳥取県水産試験場と共同で、マアジ幼魚の新規加入量調査を実施しましたので結果をお知らせします。

《結果の概要》

マアジ幼魚の分布範囲は、水温 16～18 (深度 50m)のごく沿岸域で漁獲され、冷水が接岸する海域ではマアジが濃密に分布していた。
2006 年のマアジ幼魚の来遊量指数 (来遊量の多さ)は、前年を上回ったものの低水準にあった。

《中層トロール調査の概要》

2006 年 5 月 22 日から 6 月 16 日にかけて、図 1 に示した鳥取県西部から長崎県五島周辺の海域の計 92 地点において中層トロール網を用いて試験操業を実施しました。

《マアジ幼魚の採集結果と分布状況》

中層トロール網による試験操業の結果、本年は合計で 7,191 尾のマアジが採捕されました。マアジの大きさは体長 2～7cm の範囲で、3～4 cm 程度のものが多く採集されました。図 1 に過去 6 年間 (2002～2006 年)の調査結果を示しました。マアジ幼魚の 2006 年の分布状況を見ると、16～18 (深度 50m)の水温が分布する対馬海峡から鳥取県のごく沿岸域で採集され、1 曳網あたりの平均採集尾数は 93 尾となりました。マ

アジ幼魚の採集数は島根半島沿岸部で多く、山口沿岸や五島周辺では少ない傾向にありました。また、隠岐諸島北方や浜田沖の 16 以下の冷水が分布する沖合域ではほとんど採集されませんでした。過去の調査においても冷水域内でのマアジ幼魚の分布は少なく、冷水が沿岸へ差し込み沿岸域に暖かい水を押し付けるような形となった本年や 2003 年（山口～島根沿岸）および 2005 年（鳥取沿岸）では、沿岸域において採集数が多くなる傾向が見られました。

《マアジ当歳魚の量的検証》

上述のようにマアジは水温 16～18（深度 50m）の海域に偏って分布することから、水温分布を考慮してマアジ幼魚の来遊量指数（指標値）を求めました。その結果、来遊量指数は、来遊量の多かった 2003 年を 1 とすると本年は 0.31 となり、少なかった昨年の 0.14 を上回ったものの依然として低水準にあると言えます（図 2）。トロール調査によって求めたこの来遊量指数は、境港におけるまき網 1ヶ統あたりの当歳魚の漁獲尾数の増減と同様の変動をしていることから、今後しばらくマアジの漁獲量は低位で推移するものと予想されます。

なお、島根県水産技術センターでは、マアジ幼魚の来遊期を把握するために、7 月においても島根県西部～九州沖合において同様の調査を継続しており、調査が終了次第、お知らせしたいと思います。

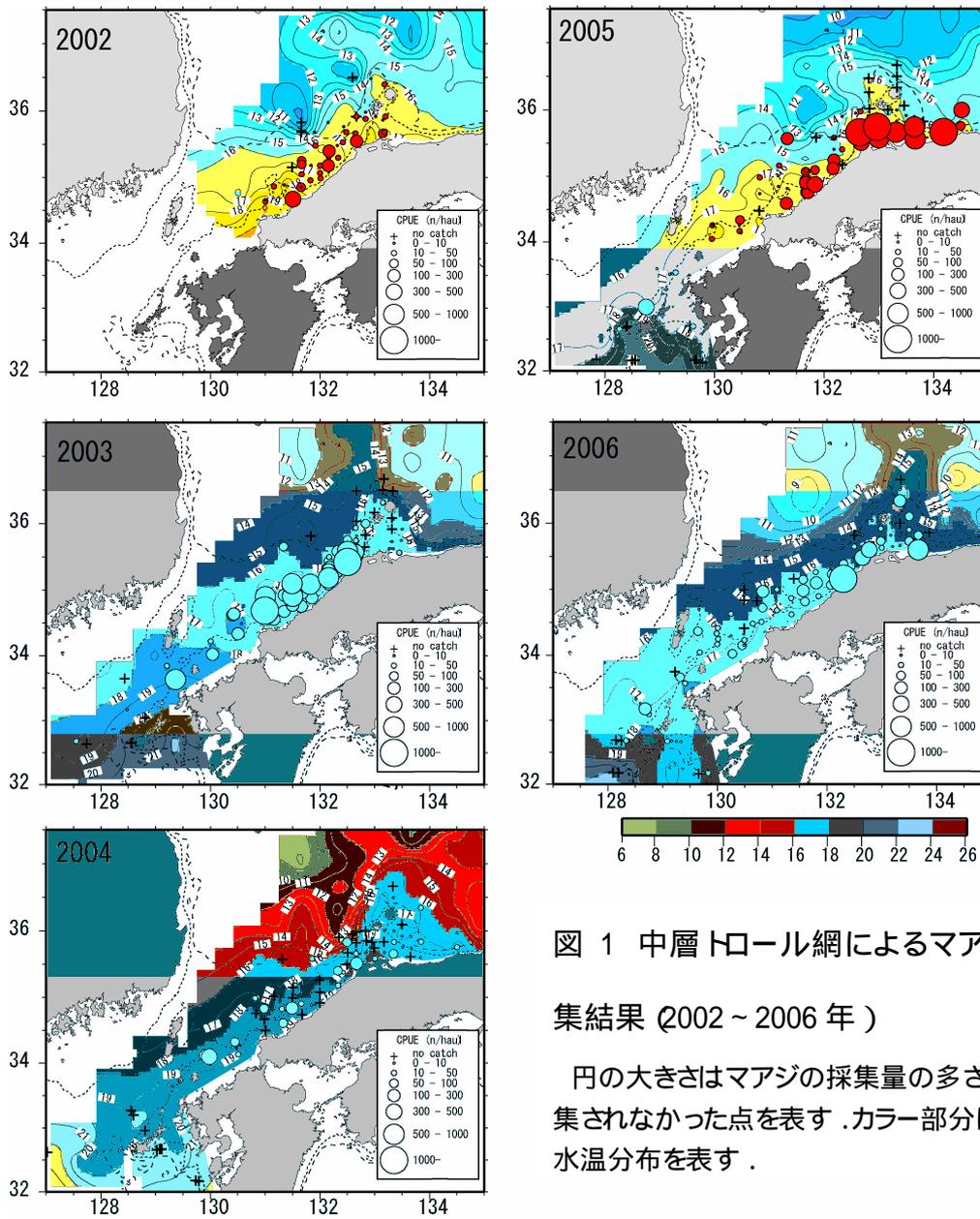


図 1 中層トロール網によるマアジ幼魚の採集結果 (2002 ~ 2006 年)

円の大きさはマアジの採集量の多さを表し,+は採集されなかった点を表す.カラー部分は水深50mの水温分布を表す.

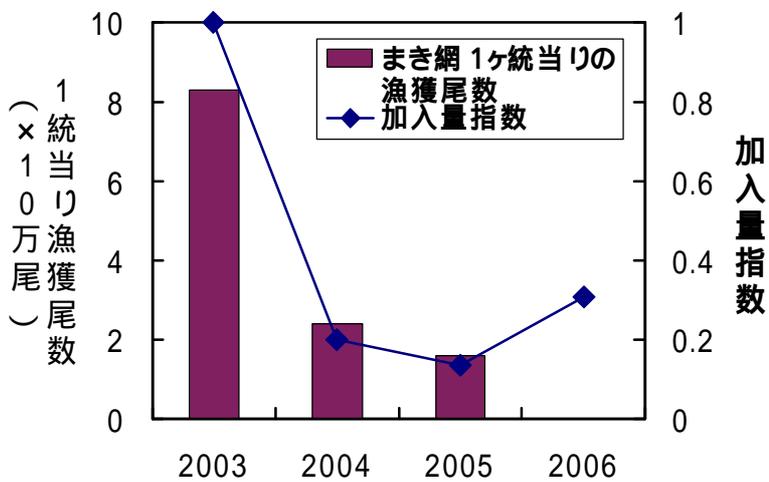


図2 境港におけるまき網1ヶ統あたりの0歳魚漁獲尾数(棒グラフ軸=左)と試験調査結果から計算したマアジ幼魚の量(折れ線グラフ軸=右)